

被害別対策例



被害別対策例



■ 対策分野 1 さまざまな方法で追い払う方法

対策例 1

さまざまな道具で追い払う

音で威嚇したり、人に見立てた案山子を使用するなど、道具を使って警戒させる方法があります。しかし最初は驚いてもそれらが「こけおどし」であることを学習し、慣れてしまうと効果が薄れてきます。変化を付けるなどの工夫が必要です。

音で威嚇する

- 爆音機
- 複合型爆音機
- 音声再生装置
- ロケット花火
- エアソフトガン
- シェルクラッカー
- ディストレスコール



動きと音で警戒させる

- 旗 / のぼり
- カラーテープ
- トリペラ
- 吹き流し
- 防鳥テープ



人や動物に見立てる

- 案山子
- マネキン
- 目玉模様
- 鳥の死体
- 鳥の模型



対策例 2

ドローンで追い払う

近年、野生のサルやシカ、ガンなどを対象として試行されているドローンを用いた追い払いを参考に、牛舎やその周辺の農場敷地内に侵入するタンチョウに対してドローンを用いた追い払いを実施し、その有効性を検討しました。

ドローンによる追い払いの検討

- ◆ ドローンをタンチョウの3mまで接近させる。
- ◆ タンチョウの逃避行動をより強く誘発させるために防犯ブザーを取り付け、音を鳴らした状況で飛行させた。



検討結果

ドローンによりタンチョウは逃げ回ったり、飛去していった。しかし、30分ほどすると戻ってくる個体もいた。そのため、単発ではなく継続的に実施する必要がある、その際に慣れが生じないように音や光が出る工夫も必要。デントコーン畑や広い場所での追い払いにおいては、人が追いかける負担が軽減することから、その点有効と考えられる。



対策例 3

人が追い払う

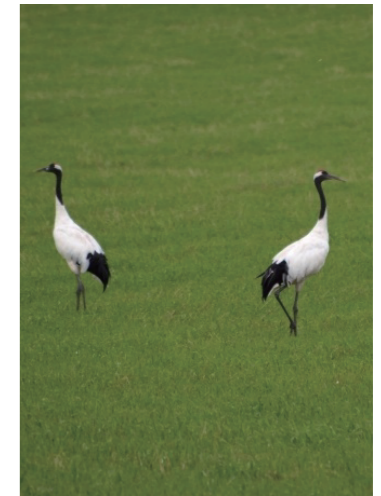
敷地内でタンチョウを見かけたら声を出して追いかけると逃げていきます。逃げるまで追うことも可能で慣れることも少ないので効果的な方法ですが、追いかける体力の問題や常に見張っていることが不可能なことから、人がいない場合は侵入されてしまいます。他の方法と併用していくことが大切です。

人による追い払いの方法

デントコーンの芽が出始める5～6月の2ヵ月ほど行うのが効果的。常に人がいて何か動いているとタンチョウも来なくなる。手を大きく広げて、声を出しながら追いかけると逃げていく。見回りを続けることで、タンチョウが来る場所が特定されてくるので、その場所を重点的に、期間中に何度か全域を回るとより効果的である。

メリット・デメリット

タンチョウを見つけるたびに追い払う方法は、非常に効果が高いが、体力と労力がかかる。



対策例 4

犬で追い払う

長野県南木曾町では、自治体の事業として、犬を訓練し「忠犬」として登録し、有害鳥獣の追い払いを実施している事例が報告されています。また、大町市においても、「モンキー・ドック事業」として、自治体が犬を訓練所にて訓練し、市をが訓練費用を負担し、犬の購入費、飼養費等は飼い主の負担となる取組を実施している報告があります。

追い払いに適した犬とは

鳥類の追い払いに適しているとされる犬種

- 柴 / スタンダード・プードル
 - ラブラドル・レトリバー
 - ゴールデン・レトリバー
 - フラットコーティド・レトリバー
- ※これらの犬種でなければ対策犬になれないということはありません

雌雄の特性

- オス…生まれつき獣を追う特性はオスの方が強い
- メス…訓練したことを実行させやすく、訓練しやすい

「追い払い」ができるようになるまでの流れ



4ヵ月に12回の講習会で訓練方法を学ぶ。
1日15分程度の訓練を行う。



出典：兵庫県 森林動物研究センター